

## インフレという新しい現実と企業の完成

黒田インターナショナル

黒田 毅

インフレは、企業の振り分けを完成する。これは競争原理における勝者を選択することになるはずで有る。

企業体力は、その資本でなく、企業の健全性と先端性における振り分けを完成する。これらはインフレにおける消費者の購買力の変化は、必ず2分化を与える。これらは市場の大幅な変化とともに企業への選択を明確に要求するはずで有る。

これらは株式市場の不安定性とともに、市場に新しい現実を生む。これらは企業の生産性とコスト効率性、製品と技術における適正利益の構築が唯一条件であり、これらは企業倫理性における市場参加を要求するので有る。

これらは社会変化を生む。これら新しい現実への参加を得ないことは必ず存在するはずで有る。これが完全な2分化である。他方においては市場における勝者が存在するのである。

これらは先端産業とグローバル企業においては明確な理解を伴う現実である。これらは新しい先端産業においては遥かに創造を超える資本力と技術力が存在するのである。

これらは、企業の健全性が、生産性と倫理性、企業システムの健全性、資本計画の健全性などが、市場において精査されることであり、これらは正しい企業経営への判断を要求する。

インフレとこれらの現実が未来であるならば、消費者の購買志向や、購買力における大幅な、変化が社会において与えられる。またグローバル市場における変化は政治の不安定性とともに、新たな要因を生むことは容易に考えられる事項である。

これらは未来における変化への正しい考察であり、企業はこれら変化において生き残りではなく勝者として、利益性と生産性、技術における優位性を自己に構築し、企業の安定した企業体質の構築を求められるのである。